

「神を心に迎える」

(昭和四十年 七月発行)

萬物は御神意に従って、その活動力を四圍に發展させる力を持っていない。人だけが萬物の靈長として、神の祖意おやごころをわきまえることが出来るのである。この深い神の恵みに感謝し、感激して、宇宙のたましいとなつて活動すべきである。何人にも神は宇宙自然の真理を判りやすく與られてある。宇宙の御意志をわきまえて活動する人は自然に神の權威がそなわり、神人合一して神と共にあることを理解できる。

神性を知って人性を知る。人性は神から與られたものであつて、神性をきわめ、人性を明らかにすること、精神的に信仰という。神性を知らない人は、従つて人性も判らない。説明によつて神を理解することは出来ない。神は説明出来るものではないからである。人は素直に、真心で、宇宙真理を聞いて自ら神を心に迎えるほかはない。